



「日本遺産」認定のまち 忍びの里伊賀・甲賀

【問い合わせ】

忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事務局
伊賀市観光戦略課 ☎0595-22-9670
甲賀市観光企画推進課 ☎0748-69-2190



◆ 忍者は黒い衣装を着ていたの？

忍者と言えば「黒い装束」を思い浮かべるかもしれませんが、実際は違っていたようです。

忍者の役目の一つは、闇夜に忍び込んで敵方の秘密を探ったり、たくらみを暴くこと。そのため目立たずに行動する必要がありました。

忍術伝書の『正忍記』には、濃紺色や柿渋色（柿の熟した色）の衣装を着ていたことが記されています。これらは元々、野良仕事や農作業に着ていた衣装で、濃紺色や柿渋色の染料には虫やマムシよけの効果もありました。

実際の忍者の装束に関する具体的な資料は少なく、多くは創作やフィクションの影響によるものがあります。私たちのイメージに欠かせない黒い装束が定着したのは、実は歌舞伎などの江戸時代の演劇からで、怪しい姿をしていたほうがわかりやすかったためと言われています。その後、戦後の忍者マンガや映画により、黒い装束は忍者のユニフォームというべきものになりました。

甲賀流リアル忍者館展示

日本遺産ポータルサイト



伊賀流忍者博物館展示

情報交流ひろば

となりまち いが・こうか・かめやま

甲賀市

「セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森 2023」

「作品と作家に出会う」をテーマに、滋賀県内で活躍する作家が集まり、作品の展示販売を行います。作品を制作した作家の皆さんとの交流を楽しみながら、さまざまな作品に出会えます。ぜひ、お越しください。

【と き】 9月16日(出)～18日(月・祝)
午前9時～午後5時
(最終日は午後4時30分まで)

※小雨決行(台風などで3日間開催できない場合は11月に延期)

【ところ】 滋賀県立陶芸の森 太陽の広場

【アクセス】

信楽高原鉄道「信楽駅」下車 徒歩20分
※園内の駐車場が混み合うため、公共交通機関の利用をおすすめします。

※午前8時までは太陽の広場に入場できません。
【問い合わせ】 滋賀県立陶芸の森
☎0748-83-0909



亀山市

「亀山7座」に挑戦！ ～完登バッジ・完登証をゲットしよう～

亀山市では、市域の山々の素晴らしさを多くの人に知ってもらい、新たな観光資源として次世代へ継承するため、標高約700メートル前後の代表的な7つの山々を「亀山7座」と選定し、登山イベントなどの取り組みを行っています。

本年度は、亀山7座すべてに登頂した人に「完登バッジ」と「完登証」を交付しています。ぜひこの機会に、亀山7座の完登に挑戦してみてください。完登バッジの申請方法などについて、詳しくは市ホームページをご覧ください。

【問い合わせ】

「亀山7座トレイル」登山道活用ネットワーク事務局(商工観光課観光・地域ブランドグループ)
☎0595-84-5074



伊賀城和 (伊賀・山城南・東大和) 定住自立圏ニュース



伊賀市 | 笠置町 | 山城南 | 山添村

【問い合わせ】 総合政策課

☎22-9620 FAX 22-9672

✉sougouseisaku@city.iga.lg.jp



第2期共生ビジョンを紹介します

◆ 共生ビジョンとは

定住自立圏は、圏域構成市町村がお互いに役割を分担し、連携・協力して、圏域に暮らすすべての住民が幸せを実感できる地域にするとともに、地方圏への定住を促進する取り組みです。

共生ビジョンは、中長期的な観点で、圏域がめざす将来像とその実現のために必要な具体的な取り組みなどをまとめたものです。第2期伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョンは令和4年度から令和8年度までを計画期間とし、圏域市町村のより一層の連帯感の醸成をめざし取り組みを進めます。

現在

2017 平成29年	2018 平成30年	2019 令和元年	2020 令和2年	2021 令和3年	2022 令和4年	2023 令和5年	2024 令和6年	2025 令和7年	2026 令和8年
第1期共生ビジョン					第2期共生ビジョン				

◆ 圏域の将来像

“水と歴史でつながる圏域” 伊賀・山城南・東大和圏域

圏域でつながり、
暮らしの安心を支える

地域で暮らすための生活基盤の確保・充実を図り、住み続けたい地域で暮らせる圏域をめざします。新たな日常、新しい生活様式を意識したデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した住み良い圏域をめざします。

活発な交流により、
賑わいを創出する

圏域市町村がもつ地域資源、また地域に暮らす人材の交流などにより、圏域全体で多様な資源の魅力高め、賑わいの創出をめざします。特に、幼少期から圏域住民としての一体感を養うための交流を通して、エリアプライド(圏域の誇り・自尊心)の醸成をめざします。

◆ 具体的な取り組み

生活機能の強化

【医療、健康・福祉、教育、産業振興、環境、防災】

- 一次・二次救急医療体制を維持するための支援や、救急医療、応急処置などに関する相談に24時間対応する電話相談事業の実施事業地域を維持します。
- タブレットなどのICTを活用し、児童生徒の交流を行います。

結びつきやネットワークの強化

【公共交通、ICT活用、交通インフラ、地産地消、内外交流】

- 通勤、通学、買い物、通院に適した公共交通ネットワークの構築をめざします。
- 圏域の魅力を相互に発信し、新たな圏域ファン(関係人口)を創出します。
- 圏域の将来を担う若者世代の交流を進めます。

圏域マネジメント能力の強化

【人材育成・交流、人材確保】

- 圏域内の職員の能力や資質向上を図るため、合同で研修会などを実施します。

※その他、具体的な取り組みについては、市ホームページをご覧ください。